



Research You

バイタルサイン・行動・自覚データを分析して
あなたの『集中カススイッチをON』にします。

私たちは、疲れた状態で勉強に励む働き世代が、**集中力が続かずに時間を無駄に**してしまうという課題を解決します。

マルチタスクで頑張る人々（ターゲット顧客）

仕事や家事、育児で多忙な日々を過ごしながらも、**夢や目標に向かって進んでいきたい**と考え、リスキングに挑戦中。ちょっと疲れがあるものの、夜寝る前の2時間は気持ちを切り替えて勉強を頑張っている。なんとかやりくりして作った限られた時間を有意義に使えるように、**集中して勉強したい**と考えている。

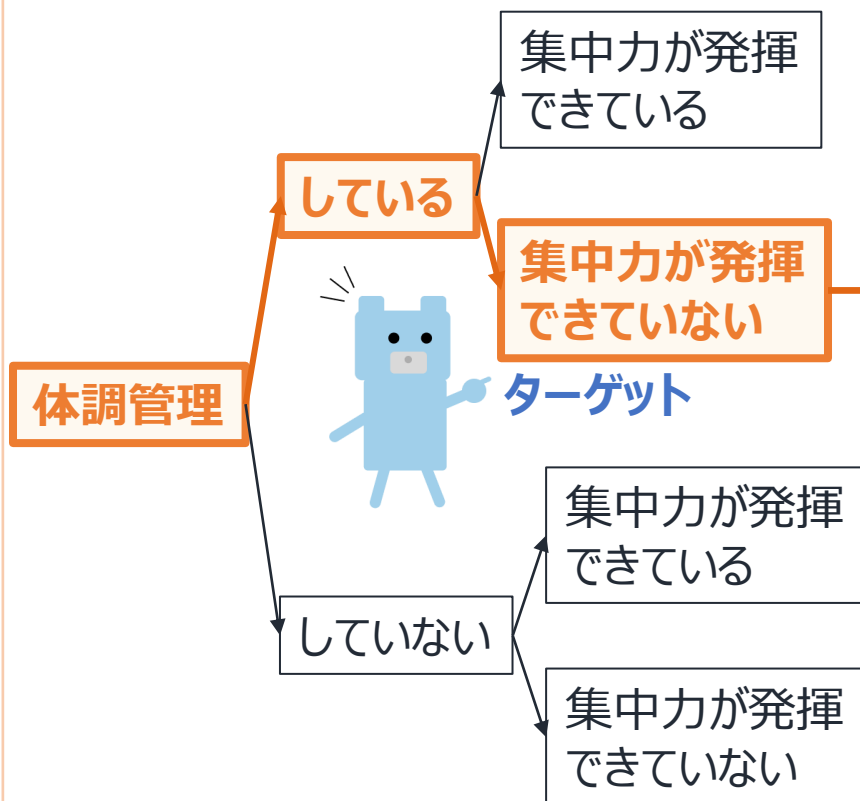


日々の悩み（抱える課題）

しかし、現実にはリフレッシュのつもりで始めたゲームで1時間以上を使ってしまったたり、SNSで次から次に流れてくる動画を見続けてしまっている。ダラダラと無駄な時間を過ごしちゃったかも？ いや、休憩にはこれぐらい必要だった！？ そんな葛藤を抱えながら、今日は勉強をあきらめて、ベッドでまたスマホを見てしまう。。

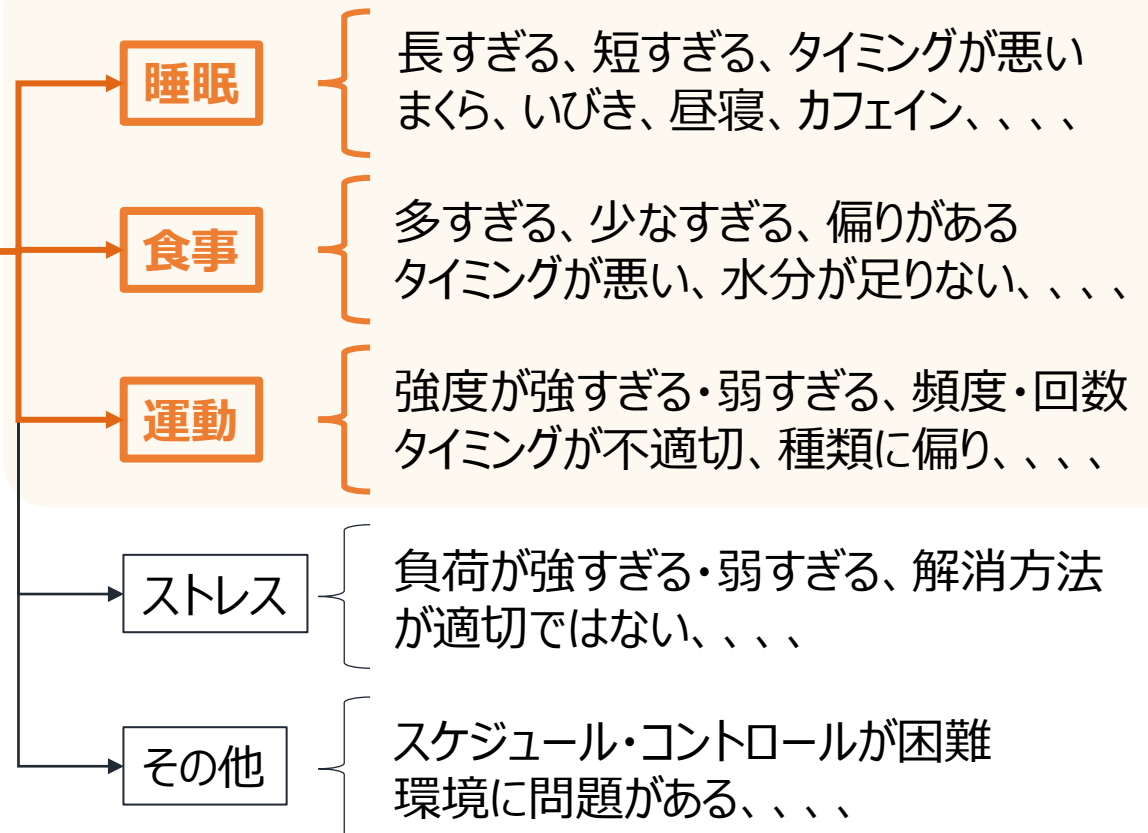
初期ターゲットは自己流の体調管理がうまくいかず、**思うように集中力が発揮できない**。結局、集中力が降りてくるまで動画を見続けてしまうユーザーです。

ユーザーの分解



ユーザーが抱える課題の分解

初期アプローチ領域



今後解決したい課題（今回はスコープ外）

「Research You」はユーザーの『集中カスイッチをON』にすることで、**時間とお金を節約し、さらに勉強時間の使い方への後悔がなくなります。**

SAVE TIME

- ・集中力が回復するまでのスマホ時間を減らすことができる。
- ・自分に合っていない体調管理法に費やす時間が無くなる。
- ・時間内にやるべきことを終わらせることができる。

SAVE MONEY

- ・健康グッズなどに余計な出費をしなくてすむ。
- ・必要以上に高いサプリメントを買わなくてよくなる。
- ・行っていないスポーツジムへの課金がなくなる。

NO REGRET

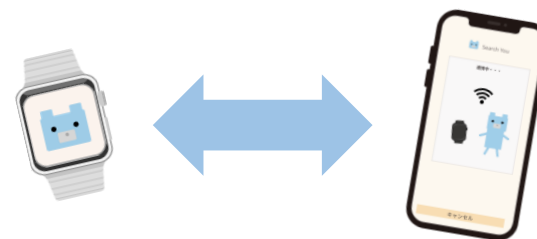
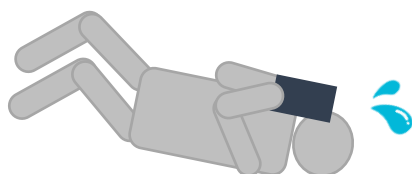
- ・掃除を始めたら、部屋中がピカピカになるまでやってしまった。。
- ・やる気が回復しないまま動画を見続けた。。
- ・マンガを読み始めたら全巻読んでしまった。。

「Research You」に集中力を高めたい時間を登録すると、その時間に集中力を高める＝『**集中カススイッチをON**』にするための行動を提案します。

＜あるユーザーの場合＞

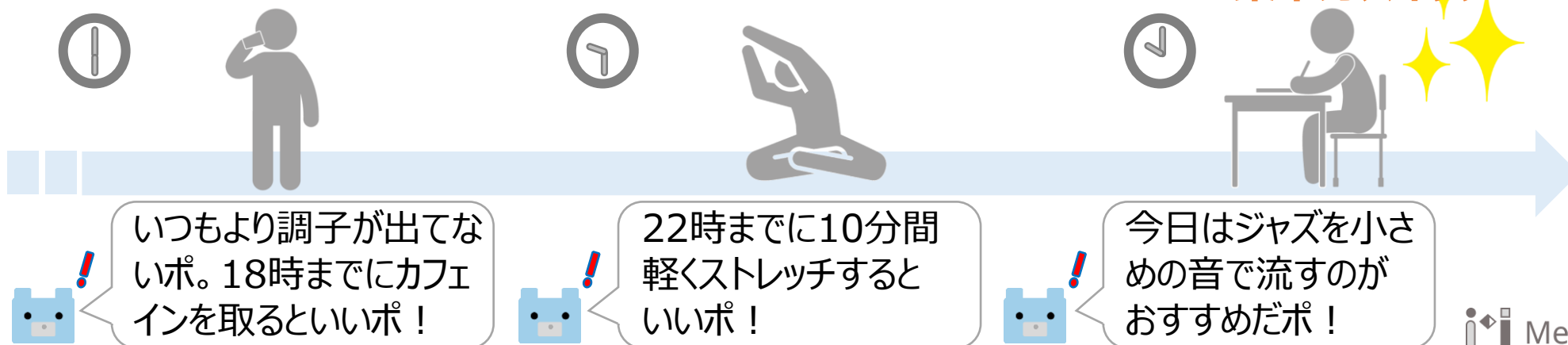
①「22時から勉強しよう！」と決めたのにやる気が出るまで動画を見てしまう。。（もう、23時だ。。）

②アプリをダウンロード ➡ ウェアラブルデバイス連携 ➡ 集中力を高めたい時間を登録

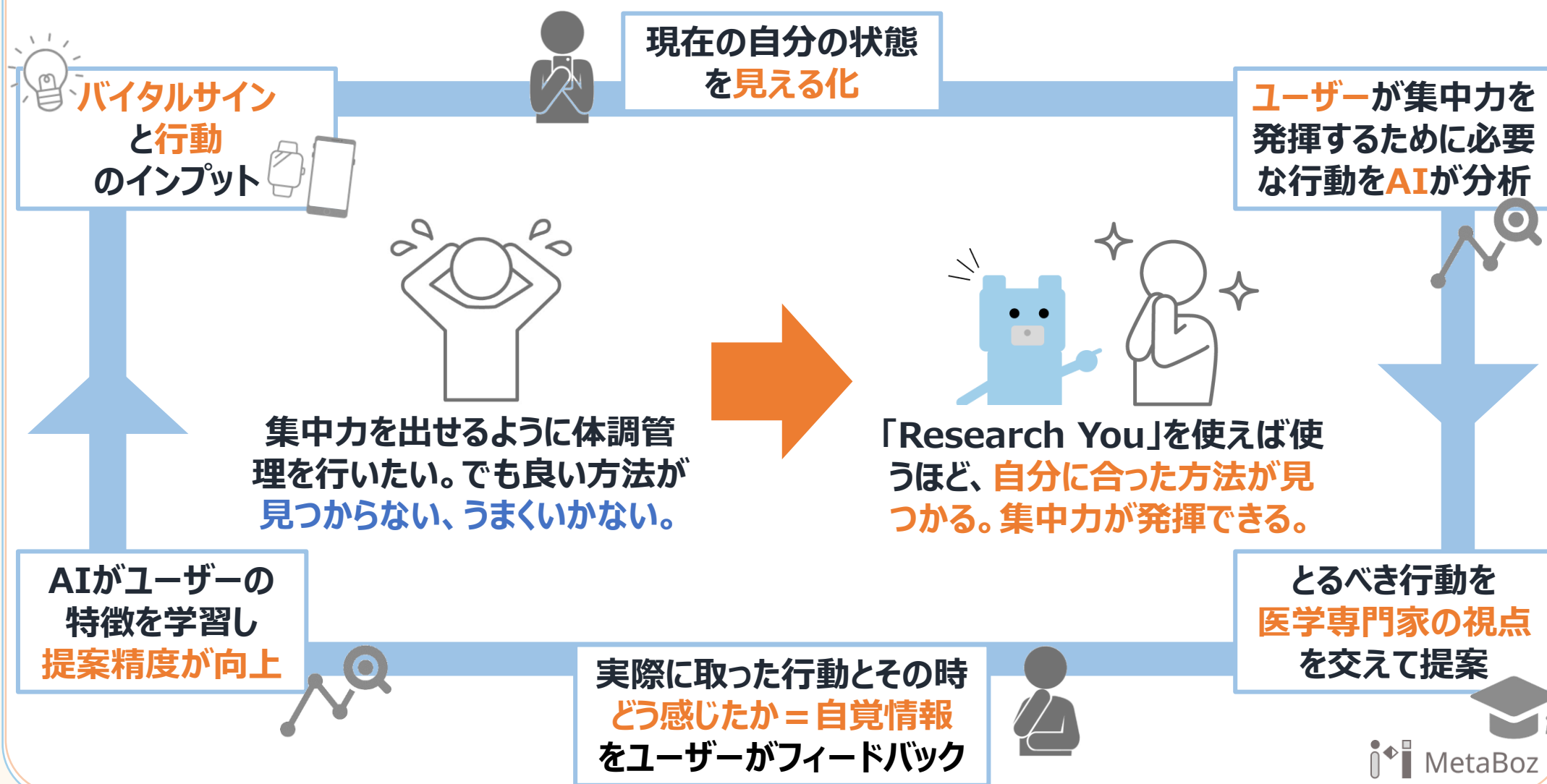


③「Research You」はユーザーのバイタルサイン・行動・自覚データを分析し、22時にユーザーが集中力を発揮できるように、その日ユーザーがとるべき行動を提案します。

集中カススイッチON！



バイタルサイン・行動・自覚情報のインプットから、AIが機械学習によって、ユーザーごとに最適な集中力を発揮するための行動を提案します。



「疲れた状態で勉強に励む働き世代」の代表としてリスキリングに挑戦する人々をターゲットに。**リスキリング人口 × ヘルスケアアプリ利用率からSOMを算出。**



世界で年間**1億人以上**がリスキリング実施
「2030年までに世界で10億人をリスキリングする」 @2020年ダボス会議 (※1)



国内 (18~64歳)
リスキリング人口 2,300万人
(※2)

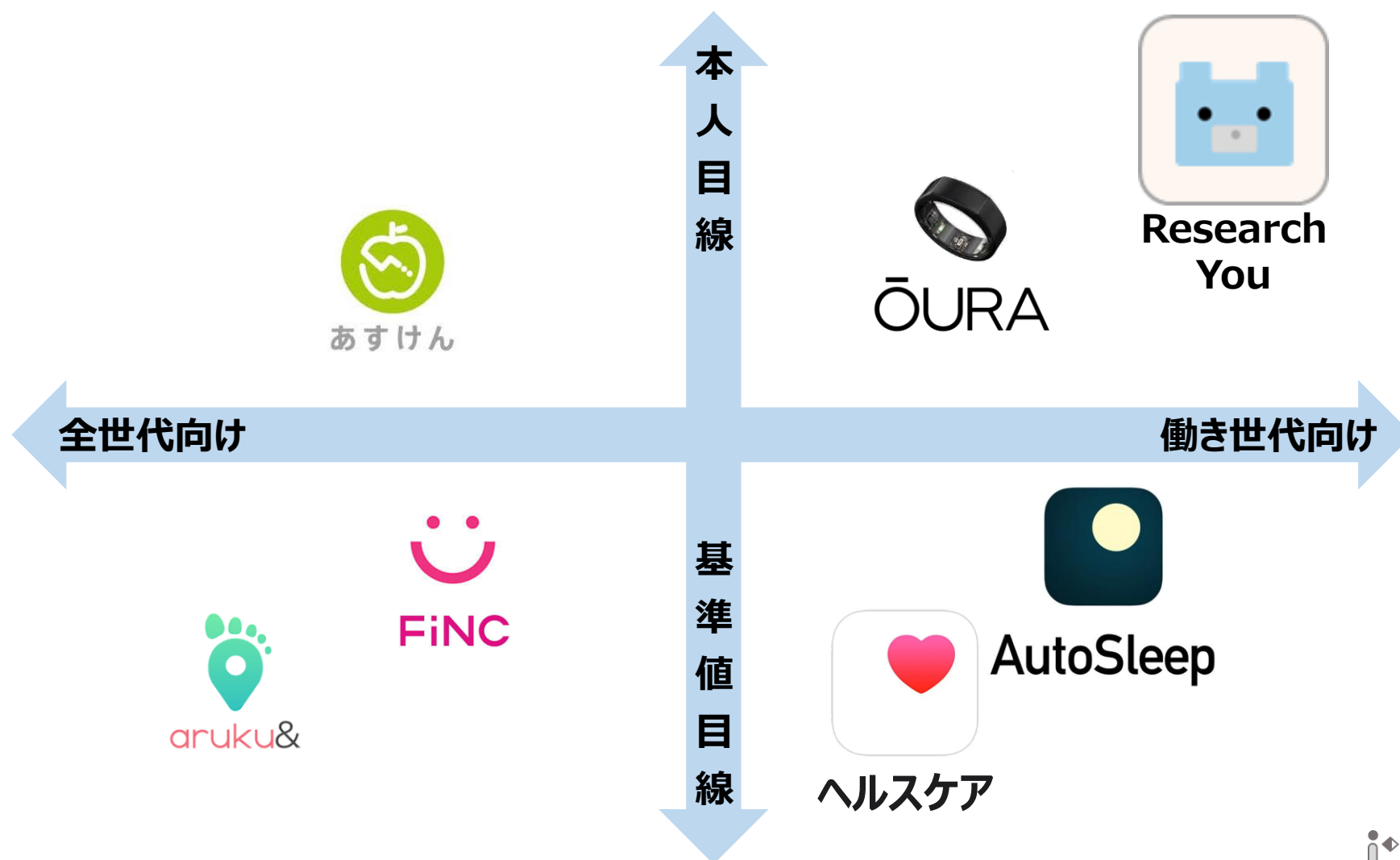


国内リスキリング人口
× **ヘルスケアアプリ利用率**
(53%)(※3) = **1,220万人**

- ※1 <https://initiatives.weforum.org/reskilling-revolution/home>
- ※2 社会人の学びに関する意識調査 2022 (ベネッセコーポレーション)
- ※3 ヘルスケアアプリ 市場調査レポート 2022 (フラー株式会社)

MVPプロトタイプのご紹介

「Research You」は働き世代の集中力向上に特化し、ユーザーがベストだと自覚する状態になるような具体的な行動提案を行います。



Tech

集中度の算出方法

既に、「**脈拍**」を中心としたバイタル情報から「**集中状態**」を算出できるとして、実証実験が進められています。私たちが算出する「**集中度**」は、バイタル情報に加えて「**自覚情報**」を加えることで、**自身が感じる「よい集中力状態」**を作ります。

心拍数で生徒の集中度をチェック、学習の効率化が管理教育か

ストーリー by nagazou 2023年06月23日 18時41分 昭和の嘘発見器的な感じが 部門より

あるAnonymous Coward 曰く、

授業中の生徒の「集中度」を測るために手首にリストバンドを巻かせ、リアルタイムに脈拍をチェックするという教育法の実験が進められている（[共同通信](#)）

リストバンド型端末で生徒の心拍をチェックし、脈拍データから割り出された「集中度」が教師のモニターに表示されるという仕組みで集中が途切れた生徒の

<https://srاد.jp/story/23/06/22/1332224/> より

集中度や感情、脈拍や血流データで「見える化」 学校にじわり浸透



子どもの左手首に巻いたリストバンド型の端末で脈拍を計測する＝2023年7月4日、埼玉県久喜市立鷗宮中学校、高嶋将之撮影

「授業を改善するために、みんなの脈拍のデータを取ってきました。緊張したり眠かったりした授業の後は自分のデータを見て、『次はもっと集中してみようかな』『もっとリラックスしようかな』と思ってくれるようになるといいですね」

埼玉県 東部にある久喜市 立鷗宮（わしのみや）中学校。1年3組の教室で7月、青木真一校長が生徒に話しかけた。喜ぶ生徒もいれ

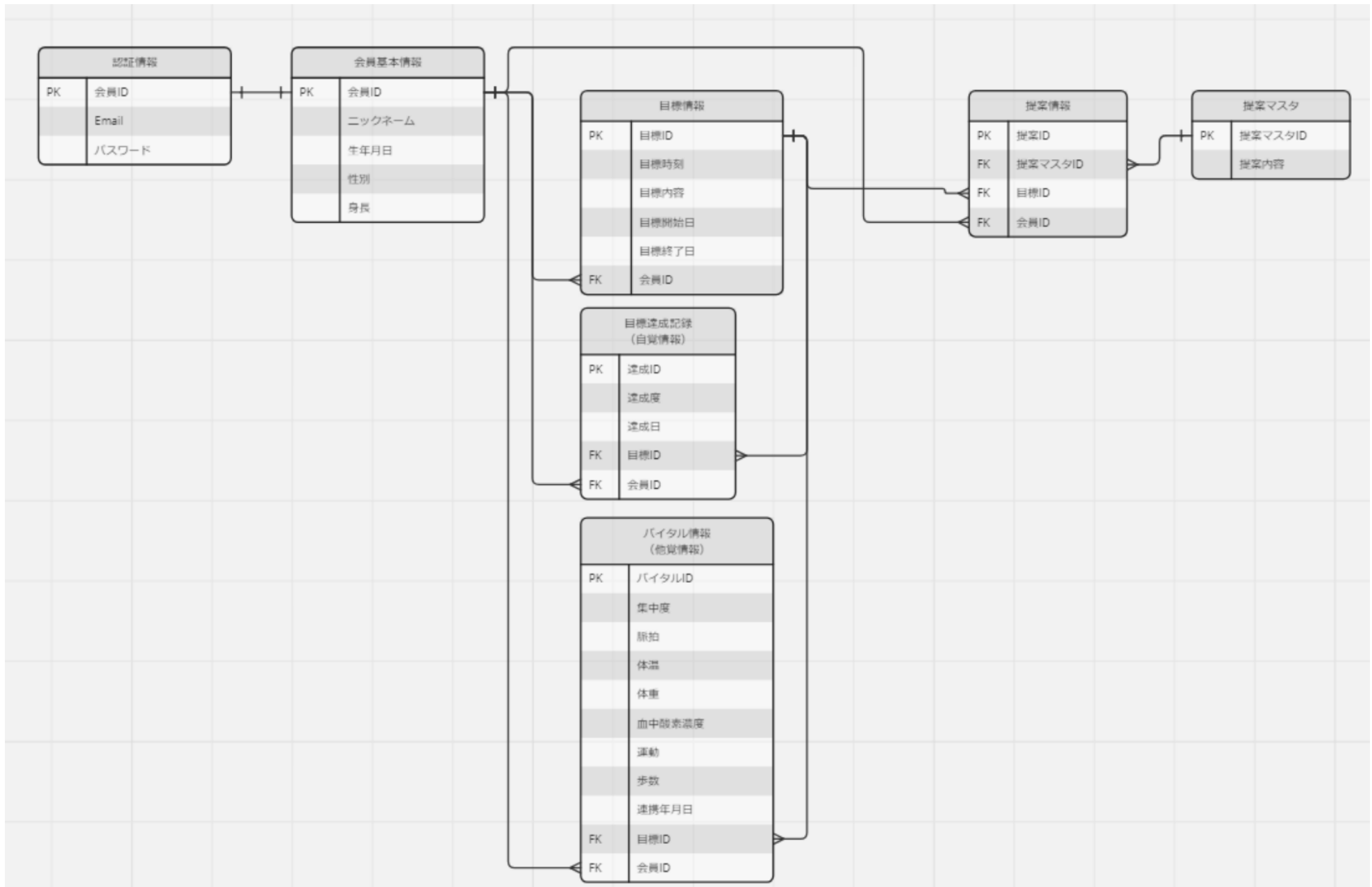
脈波及び体動情報を用いた集中状態推定精度の検証

内田 昂¹，磯山直也¹，ロペズ・ギョーム¹

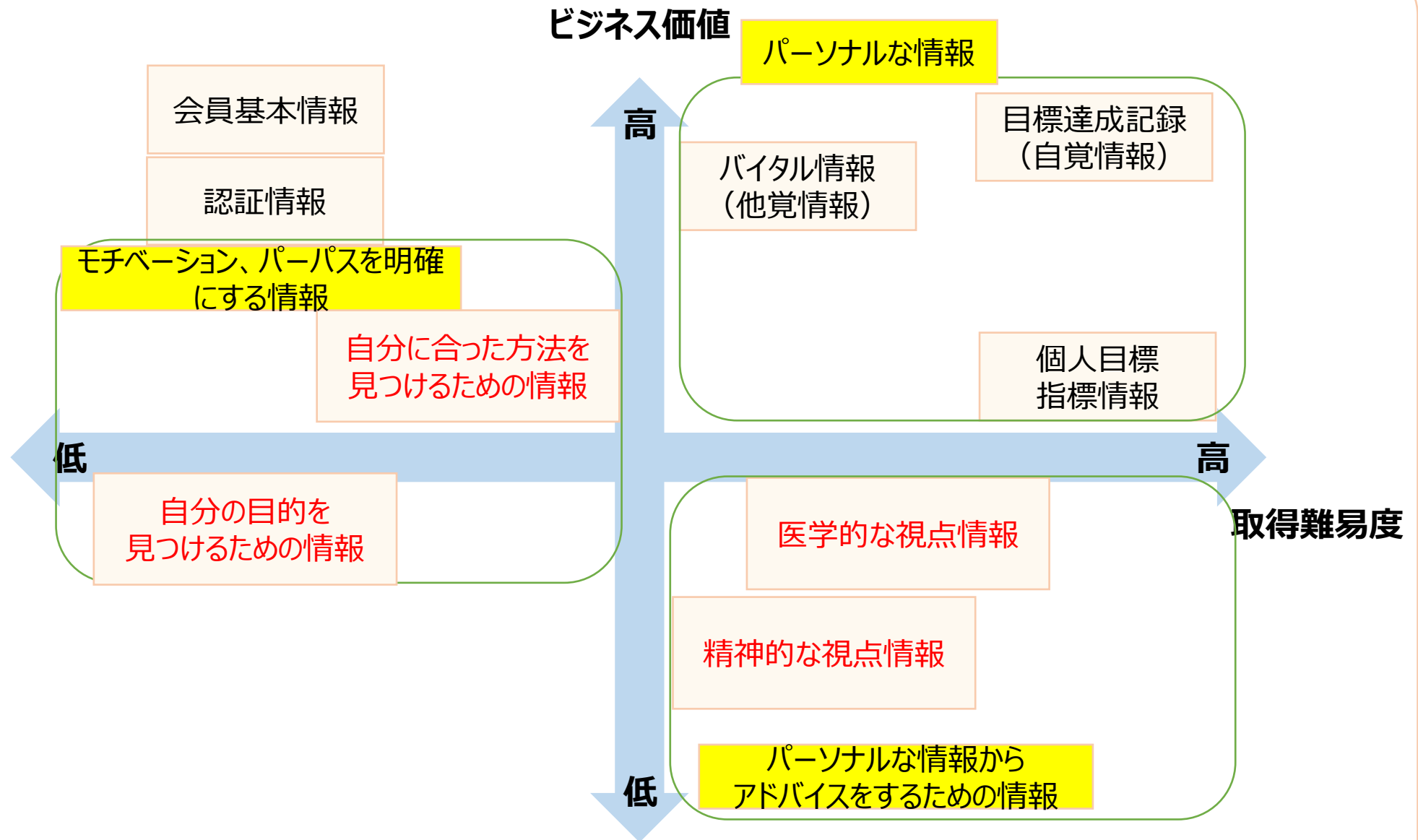
概要：我々は物事に集中して取り組む能力として「集中力」という言葉を用いることがあるが、集中力は様々な要素が含まれることから定量化することができず、無意識下に変化する集中状態を常時把握することも困難である。集中状態を推定する手法として体動情報や生体情報を用いたものが提案されてきたが、双方を同時に用いた集中状態の推定は未だ行われていない。そこで、本研究では従来研究で用いた体動情報に加え、生体情報として脈波を使用した単一デバイスによる集中状態の推定手法を提案する。本手法を用いることで、自身の作業態度を振り返り、作業環境などを省みる機会を与えることができる。勉強中のデータを使用した教師あり学習を行い、学習結果に対し交差検証を行った結果、推定に十分な精度を得ることが出来た。また、集中状態評価を複数人で行うことで85.5%の精度を得ることができ、本手法が有効であることを確認した。

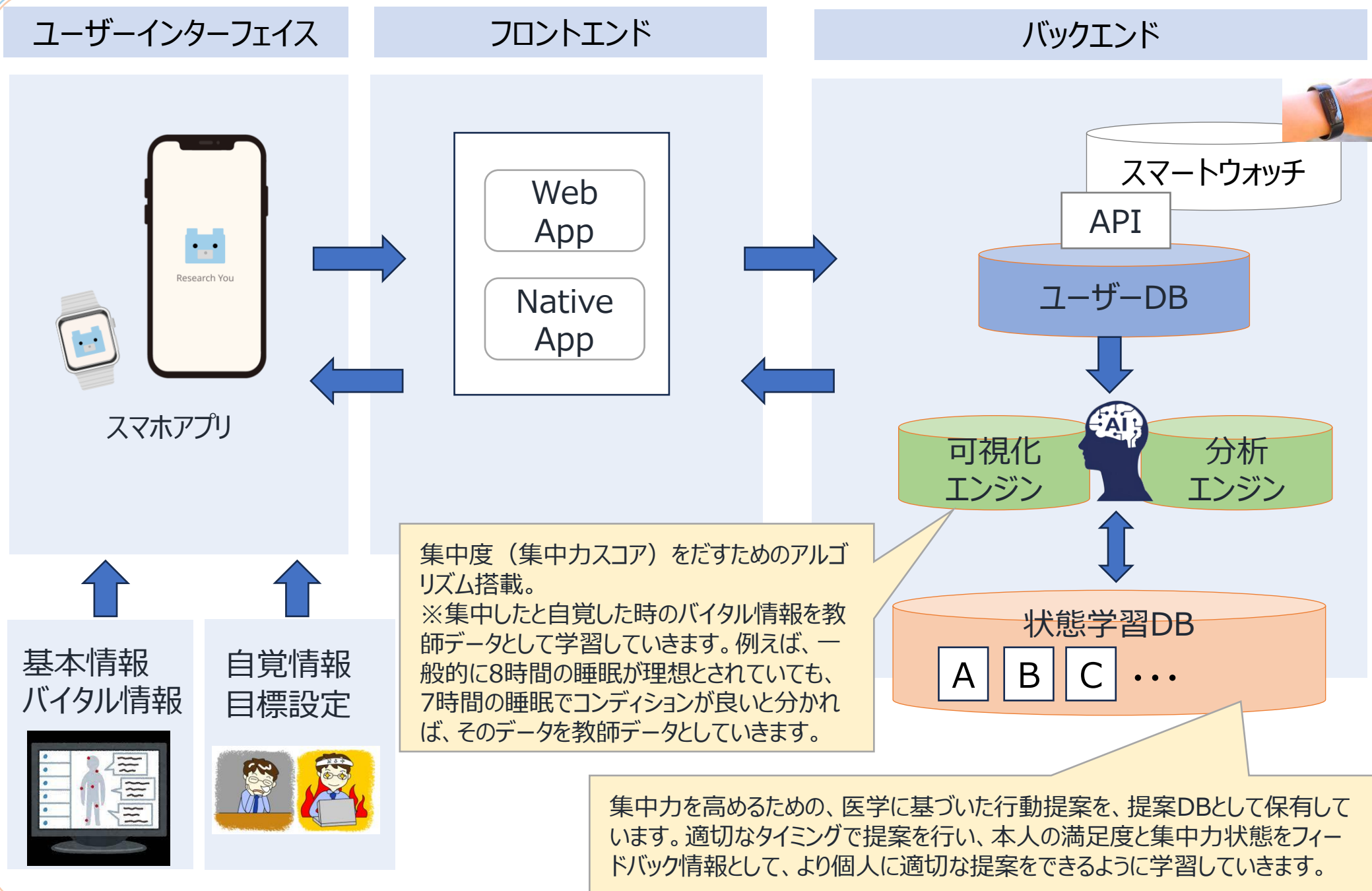
「マルチメディア、分散、強調とモバイル（DICOMO2017）シンポジウム 平成29年6月」より

<https://www.asahi.com/articles/ASR9L6KRYR9LUTIL00F.html> より

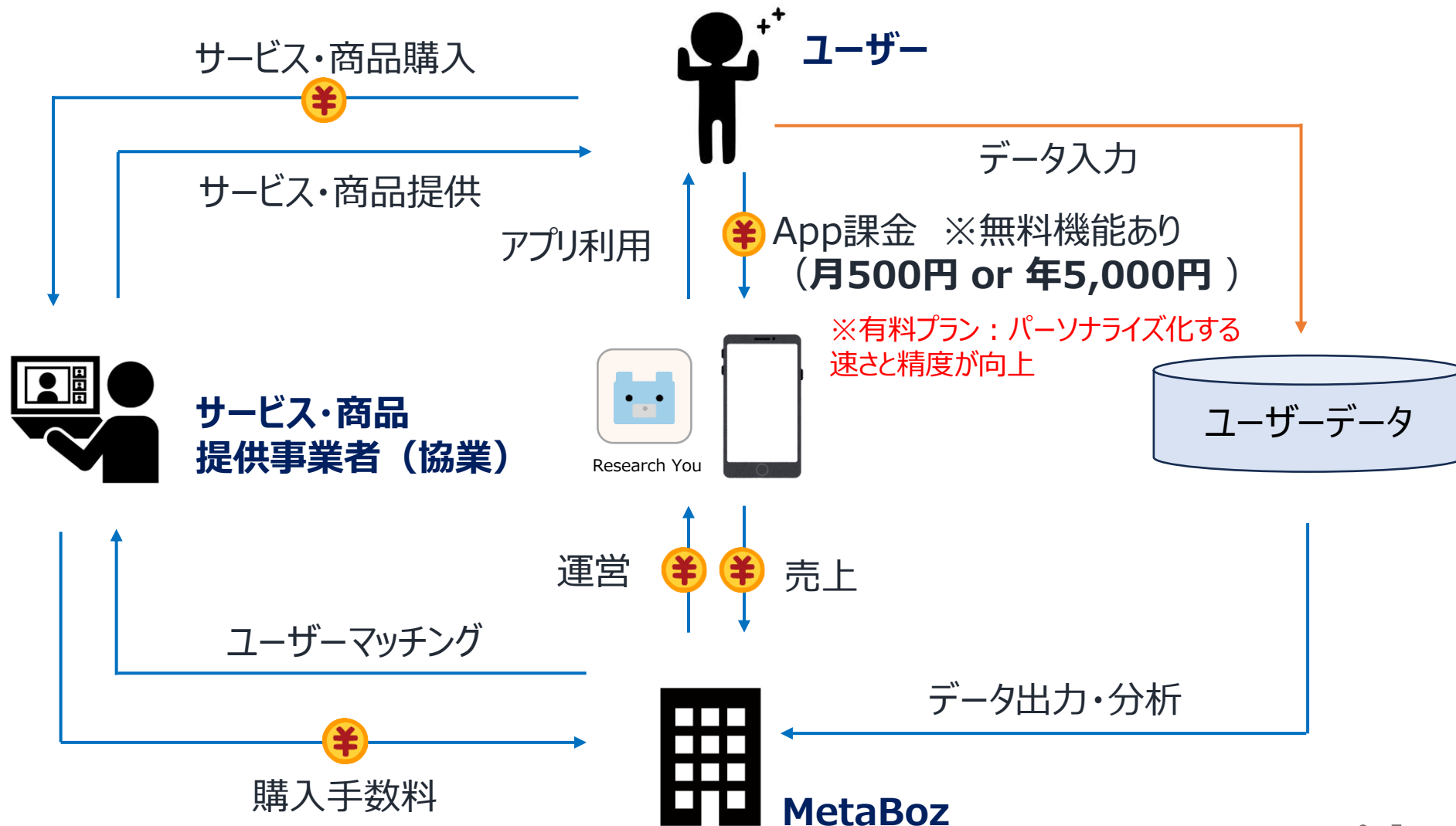


データ取得優先度マップ





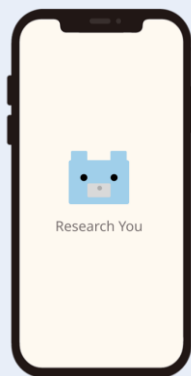
「Research You」の主な収入は、ユーザーのApp課金と、協業先のサービス・商品提供事業者からの手数料となります。



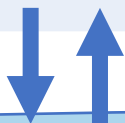
MetaBozはPHRプラットフォームを活用し、Phase 1～3の事業を展開。それぞれのPhaseでシナジー効かせて企業価値を高めていきます。

Phase1

集中力向上アプリ (自己実現×ヘルステック)



決めた時間に『集中力スイッチをON』にできると、自己実現ができるようになる。



Phase2

医療ヘルスケアアプリ (未病予防×ヘルステック)



未病予防領域のユーザーの健康管理を行い、病気の予防や重症化予防に寄与する。



Phase3

治療アプリ (医療×ヘルステック)



蓄積したデータから治療効果がある疾患領域の治療アプリを作成し、重症化予防に寄与する。



MetaBoz PHRデータ

絶対にあきらめない、背中を預けられる仲間たち



- ITコンサル
- 医学博士
- MBA
- **SQL担当**



- 工学博士
- ハードウェアスペシャリスト
- **データアナリスト (AI担当)**



- 医療DXベンチャーCOO
- 薬剤師
- MBA
- **事業企画**
- **フロントエンド担当**
- **+その他**